西宮上ケ原キャンパス
ランバス記念礼拝堂

オルガンのご紹介



関西学院
KWANSEI GAKUIN

SPECIFICATION パイプオルガン仕様

2段手鍵盤ペダル 24ストップ

Hubert BRAYÉ S.A.R.L. Facteur d'Orgues en Haute-Alsace

ユベール・ブライエ オルガン建造所 ＜フランス・アルザス地方＞ 2026年10月31日奉献







●第１手鍵盤
Grand-Orgue（G.O.）
58 notes C−a'''

1	Bourdon	16'
2	Montre	8'
3	Bourdon	8'
4	Prestant	4'
5	Flûte à cheminée	4'
6	Nasard	2 2/3'
7	Doublette	2'
8	Tierce	1 3/5'
9	Fourniture IV	
10	Trompette	8'

●ペダル鍵盤
Pédale
30 notes C−f'

1	Soubasse	16'
2	Flûte	8'
3	Basson	16'
4	Trompette	8'

●第２手鍵盤
Récit Expressif
58 notes C−a'''

1	Bourdon	8'
2	Salicional	8'
3	Voix céleste	8'
4	Flûte	4'
5	Quinte	2 2/3'
6	Doublette	2'
7	Tierce	1 3/5'
8	Sifflet 1' - Cymbale II	
9	Basson-Hautbois	8'
10	Voix humaine	8'







Accouplement	II / I
Tirasse	I / P
Tirasse	II / P
Tirasse	II / P 4'

Tremblant doux



BUILDER 製作・設計 Hubert BRAYÉ社について

2000年にフランス・アルザスに設立されたオルガンビルダーで、オルガンの建造および歴史的価値の高いオルガンの修復などを手掛けています。ブライエ社はその実績から、フランス政府が設けた認証制度である「EPV（Entreprise du Patrimoine Vivant：生きた伝統遺産企業）」の認定を受けています。これは、卓越した技術やノウハウを有するフランス企業を顕彰するための認証ブランドです。
主任ビルダーのHubert Brayé氏は40年以上にわたってアルザス地方にある小さな村・ローヴにあるサンテロワ教会のオルガニストも務めておられます。



TONE 音色の特色について

アルザス地方の19世紀中頃の伝統から製作された本オルガンは、ひとつの時代や地域性に限定されない豊かな音色を有しています。ブクステフーデ、クープラン、バッハなどの17世紀から18世紀に花開いたバロック音楽から、ボエルマンやヴィエルヌに代表されるような19世紀のロマン派音楽やアランといった20世紀の近代音楽にも連続性があり、会衆の賛美をリードするのにも優れています。

LAMBUTH MEMORIAL CHAPEL

ランバス記念礼拝堂について



学院創立者であるアメリカ人宣教師ウォルター・ラッセル・ランバスの名前を冠した本礼拝堂は、1959年、学院創立70周年を記念して建設されました。役職者の就任式などの学院の式典、種々の礼拝のほか、キリスト教行事やコンサート、結婚式、学生オルガニストのレッスンなどに広く用いられており、学院のキリスト教主義教育を象徴する建物です。

BACK GROUND

2026年オルガン設置の経緯について



フランス・アルザスにあるユベール・ブライエ社建造のパイプオルガンを新設し2026年10月31日奉献式を挙行しました。礼拝堂設置のパイプオルガンとしては、1961年、在米の元学院宣教師たちの募金活動により導入されたシュリッカー社（アメリカ）のオルガン、1982年設置のオーバーリンガー社（ドイツ）のオルガンに続く、三代目となります。

ブライエ社のパイプオルガンは、準学校法人パルモア学院からのご寄付を基に製作・設置されました。パルモア学院は、1886年に来日したランバス宣教師一家が開設した読書館（英語塾）を源流とする、神戸有数の英語学校であり、関西学院と同じルーツを持つ姉妹校ともいうべき存在でした。2020年、パルモア学院が惜しまれつつ閉校するにあたり、関西学院に多額のご寄付を賜りました。

このパイプオルガンが「パルモア・オルガン」として親しまれながら、関西学院とパルモア学院の歴史と絆を末永く響かせ続けることを願います。